

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	ユニバーサル都市・福岡の推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		少子高齢化や都市のグローバル化などに伴い、本市に暮らし、訪れる様々な人々の価値観やライフスタイルに対応するまちづくりが求められている。
開始年度	平成23年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	成果(終期・継続検討)
	対象をどのような状態にしたいのか			
事業目的	市民、地域、企業、学校など	<ul style="list-style-type: none"> ○「ユニバーサル都市・福岡」PRサポーターによる普及啓発 ○福岡版ユニバーサルマナー検定の実施 ○「ユニバーサル都市・福岡」公式Instagramの運用 ○企業・団体向けホームページの周知 ○市政だより等を活用した啓発 ○事業者等との連携 ○小学4年生向け副読本の作成・配布 ○市職員向けの研修(新規採用職員研修、eラーニング)及び市民向け出前講座(5回)の実施 	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、継続して事業を実施していく。	
	市民等が、ユニバーサルデザインの考え方を理解し、誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまちになっている。			

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	<ul style="list-style-type: none"> ○関心がない市民への様々な媒体を用いた啓発 ○市民等に身近な場所での啓発 ○小学生向け副読本の作成・配布 ○市職員向け研修の実施 ○福岡版ユニバーサルマナー検定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心がない市民等がユニバーサル都市・福岡を理解する ○市民等がユニバーサルデザインに触れる ○小学生がユニバーサルデザインについて学ぶ ○市職員がユニバーサルデザインについて理解し、業務に取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政だけでなく、市民・地域、企業、学校などがユニバーサルデザインの大切さについて十分に理解し、具体的な取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」が実現し、市民の生活の質や市の魅力が向上する。 								
	指標の内容	実績		目標		成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標		
		年度	R2年度	R3年度	R4年度		最終年度		年度	R2年度	R3年度	R4年度
	ユニバーサル都市・福岡のロゴマークの掲出箇所数	目標	1,000.0	1,000.0		R 年度	ユニバーサルデザインの概念の理解度	目標	65.0	-		R6年度
		実績	6,704.0	6,840.0	-	-		実績	58.3	57.5	-	70.0
		達成率	670.4%	684.0%				達成率	89.7%	-		
		目標				R 年度	ユニバーサルデザインの取り組みへの評価	目標	58.0	-		R6年度
		実績						実績	44.3	54.0	-	65.0
		達成率						達成率	76.4%	-		
		目標				R 年度	「ユニバーサル都市・福岡」のロゴマークの認知度	目標	-	-		R6年度
		実績						実績	54.2	58.4	-	65.0
		達成率						達成率	-	-		

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 1-1-1 再 -	施策成果指標
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている	ユニバーサルデザインの概念の理解度(2024年度:70%)
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり	ユニバーサルデザインの取り組みへの評価(2024年度:65%)
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進	
行政運営プラン		
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供	
推進項目	④市民や企業などとの共働・連携	

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
歳出合計	8,311	
歳入	特定財源	0
	一般財源	8,311
前年度決算額・翌年度予算額		
年度	R2	R4
歳出合計	7,487	9,083
歳入	特定財源	0
	一般財源	7,487

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	農山漁村地域など市街化調整区域の活性化			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		農山漁村地域など市街化調整区域は、自然とまちの調和がとれたコンパクトな都市を形成するうえで大変重要な役割を担っているが、人口減少や高齢化の進展等に伴い、農林水産業の振興やコミュニティの維持など様々な課題を抱えており、活性化の取組みが必要となっている。
開始年度	平成27年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 農山漁村地域など市街化調整区域	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ①地域主体のまちづくり活動の支援 関係部局が連携し、地域の活性化に向けた具体的な活動(産直市など)の支援を行った。 ②空き家・空き地等の発掘 民間事業者の進出先となる空き家・空き地の発掘を目的として、志賀島・北崎の物件情報の収集・整理及び事業者ヒアリングを行った。 ③事業者へのヒアリング(進出意向等) 規制緩和の制度内容や地域の魅力について情報提供を行い、民間事業者の需要喚起を行った。 ④地域と事業者のマッチング 進出意向のある事業者と地域の対話の場を設定した。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 地域資源を活かした新たなビジネスが生まれること等により、農林水産業・観光業などの地域産業の振興が図られるとともに、定住化促進され、地域の活性化により、人口減少・少子高齢化など課題が解消された状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・地域において活性化に向けた主体的な取組みが進められている。 ・農山漁村地域でのビジネス展開について、事業者からの相談・提案などが行われている。 ・地域住民と事業者のネットワークが生まれ、事業化に向けたマッチングが行われている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																							
	・地域主体のまちづくり活動の支援 ・空き家・空き地等の発掘 ・事業者へのヒアリング(進出意向等) ・地域と事業者のマッチング	・地域住民の活性化に向けた意欲が向上する。 ・農山漁村地域に関心を示す事業者等の進出先が確保される。 ・事業者からの対象地域への関心が高まる。 ・地域住民と事業者が繋がる機会が生まれる。	・地域において活性化に向けた主体的な取組みが進められている。 ・地域の空き地・空き家の情報が随時集約される。 ・農山漁村地域でのビジネス展開について、事業者からの相談・提案などが行われている。 ・地域住民と事業者のネットワークが生まれ、事業化に向けたマッチングが行われている。	・地域資源を活かした新たなビジネスが生まれ、農林水産業や観光業の振興など、地域の活性化が図られる。 ・新たなビジネスが地域の雇用を生み、定住人口が増加する。																																							
	指標の内容	実績	目標	実績	目標																																						
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>地域において実施される会合等への参加件数</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>10.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>8.0</td> <td>10.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>80.0%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	地域において実施される会合等への参加件数	10.0	10.0	10.0	R 年度	実績	8.0	10.0	-	-	達成率	80.0%	100.0%	-	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>地域と事業者のマッチング支援数</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>33.3%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	地域と事業者のマッチング支援数	3.0	2.0	2.0	R 年度	実績	1.0	2.0	-	-	達成率	33.3%	100.0%	-	-	成果の指標(KPI)
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																							
地域において実施される会合等への参加件数	10.0	10.0	10.0	R 年度																																							
実績	8.0	10.0	-	-																																							
達成率	80.0%	100.0%	-	-																																							
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																							
地域と事業者のマッチング支援数	3.0	2.0	2.0	R 年度																																							
実績	1.0	2.0	-	-																																							
達成率	33.3%	100.0%	-	-																																							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>事業者ヒアリング等の実施</td> <td>30.0</td> <td>30.0</td> <td>30.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>54.0</td> <td>30.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>180.0%</td> <td>100.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	事業者ヒアリング等の実施	30.0	30.0	30.0	R 年度	実績	54.0	30.0	-	-	達成率	180.0%	100.0%	-	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>制度活用による施設立地申請の件数</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0%</td> <td>300.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	制度活用による施設立地申請の件数	1.0	1.0	1.0	R 年度	実績	1.0	3.0	-	-	達成率	100.0%	300.0%	-	-	
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																							
事業者ヒアリング等の実施	30.0	30.0	30.0	R 年度																																							
実績	54.0	30.0	-	-																																							
達成率	180.0%	100.0%	-	-																																							
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																							
制度活用による施設立地申請の件数	1.0	1.0	1.0	R 年度																																							
実績	1.0	3.0	-	-																																							
達成率	100.0%	300.0%	-	-																																							

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	4-4-3	なし
	再	-	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		施策成果指標
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり		
事業群	豊かな自然を活かした市街化調整区域の活性化		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計			7,028
歳入	特定財源	0	
	一般財源	7,028	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		4,959	7,400
歳入	特定財源	0	
	一般財源	4,959	7,400

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	都心のまちづくりの推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か	
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		福岡都心部の更なる賑わい創出や魅力向上をおこなう必要性があったため。	
開始年度	平成17年度	行政計画	なし			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心部	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 天神地区・博多駅地区において、地域・企業などが会員となって、魅力的なイベントの実施、回遊性向上や来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等のまちづくり活動を実施しているエリアマネジメント団体(天神地区: We Love 天神協議会、博多駅地区: 博多まちづくり推進協議会)に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し関係者調整などによる支援を行った。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか エリアマネジメント団体が自力で十分な自主財源を継続的に確保できるような状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 官民共働により、都心部の魅力や回遊性の向上、美しい景観の形成や安全・安心の空間を創出する。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	エリアマネジメント団体に負担金を支出するとともに、エリアマネジメント団体のまちづくり事業に対し支援を行う。	エリアマネジメント団体による、まちづくりイベント、集客促進活動、安全安心・環境向上活動が進む。 また、エリアマネジメント団体の自主財源が拡大する。	福岡都心部の価値や魅力の向上とエリアマネジメント団体(会員企業)の運営の改善の好循環が生まれる(エリアマネジメント団体の活動が活発になり、自立的に多様な活動を行えるようになる)。	福岡都心部の価値や魅力が高まり続け、福岡市全体の競争力、集客力を牽引する。
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

指標の内容	年度	実績		目標		成果の指標(KPI)
		R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	
エリアマネジメント団体数	目標	2	2	2	R年度	福岡都心部は賑わいがあり訪れたい魅力があると感じる市民の割合
	実績	2	2		—	
	達成率	100.0%	100.0%		—	
	目標				R年度	
	実績					
	達成率					

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	4-6-2	
	再	-	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		施策成果指標 なし
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上		
事業群	エリアマネジメントの推進		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		15,335	
歳入	特定財源	6,588	
	一般財源	8,747	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		10,522	24,180
歳入	特定財源	10,725	9,600
	一般財源	▲ 203	14,580

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	産学官民連携による国際競争力強化			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か					
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		アジアと日本の玄関口であり、暮らしの質の高さが世界から評価されている福岡であるが、今後は人口減少などにより経済成長が衰退する見込みがある。今後、福岡の活力を維持強化していくためには、産学官民が一体となって、国際競争力を高め、地域経済をグローバル化することで、アジアの内需を取り込んでいくことが必要である。					
開始年度	平成23年度	行政計画	なし							

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 福岡都市圏	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 地域戦略を推進していくための産学官連携組織である「福岡地域戦略推進協議会」に負担金を支出し、地域の成長を実現する質の高いプロジェクトの検討経費、コンソーシアムの組成支援、市民や会員向けシンポジウムの開催経費などの支援を行った。なお、福岡市は正会員として参画している。(負担金内訳: 正会員年会費: 300千円、協賛金等: 34,700千円)	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 福岡都市圏が国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となる
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・福岡地域戦略推進協議会(FDC)において、産学官民が一体となって策定した「地域戦略」を推進し、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)						
	・福岡地域戦略推進協議会が策定した地域戦略を推進するために、4つの部会を中心としてプロジェクト等の構築を行う。 ・イベントや情報発信を通じて、市民との共有を行いながら戦略を推進していく。	・部会などでプロジェクトが創出される。 ・地域戦略の市民への共有が図られる。	次々とプロジェクトが構築・推進されることにより、域内外から人と投資が呼び込まれ、戦略の目標が達成される。	福岡都市圏が東アジアのビジネスハブとして、日本・中国・韓国・台湾などのビジネス交流拠点となり、多様な人材が訪れ、働き・暮らす、国際競争力を備えたアジアで最も持続可能な地域となっている。						
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	実績	目標				
活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
	目標	-	-	-	R 年度	目標	-	-	-	R 年度
	実績	-	-	-	-	実績	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	達成率	-	-	-	-
	目標	-	-	-	R 年度	目標	-	-	-	R 年度
	実績	-	-	-	-	実績	-	-	-	-
	達成率	-	-	-	-	達成率	-	-	-	-

		事業区分	重点
基 本 計 画			
施策コード	主	6-1-1	
	再	8-1-1	5-4-1 7-5-3
分野別目標	経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている		
施策	産学官連携による、知識創造型産業の振興		
事業群	知識創造型産業の振興		
行政運営プラン			
取組方針	なし		
推進項目			

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計	35,000		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	35,000	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2	R4	
歳出合計	35,000	35,000	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	35,000	35,000

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	グローバルスタートアップ推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		スタートアップカフェからの創業が681社を超えるなど、スタートアップの裾野が広がる中、世界で通用するスタートアップを輩出するためには、グローバル展開を見据えた創業や、市内スタートアップと海外の優秀なスタートアップとの交流が可能となる環境の構築が急務。			
開始年度	平成28年度	行政計画	なし					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 創業間もないスタートアップ、創業予定者、その支援者、中小企業の第二創業等	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ① 海外のスタートアップ拠点との連携 福岡市から海外展開を目指す市内スタートアップ、及び海外から福岡市への進出を図る外国人創業者等を相互に支援するため、グローバルなネットワークを構築。 ② 海外展開研修の実施 福岡市内の起業家やその候補者などを対象に、海外展開を意識した創業や海外ビジネスを実現させるため、海外展開研修事業をオンラインで実施。 ③ グローバルスタートアップセンター(相談窓口)の設置 福岡市内スタートアップの海外展開や、海外スタートアップの福岡市進出の相談対応、ビジネスマッチング支援を行う窓口を設置。 ④ WEBやメールマガジン等による福岡市施策等の海外向け情報発信 海外のスタートアップや投資家等に向け、福岡市施策や市内スタートアップに関する情報を、WEB、SNS、メールマガジンによる情報発信を実施。 ⑤ 国際ビジネスマッチングイベントの開催 オンラインを活用し、海外スタートアップ拠点との連携を活かした国際ビジネスマッチングイベント「ASCENSION」を開催。 ⑥ グローバルスタートアップコーディネーターの設置 ビジネスの具体化・マッチング支援強化のため、具体的・専門的な相談に対応できるコーディネーターを設置。	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ・福岡市から世界で通用するスタートアップが続々と輩出され、海外スタートアップの先進的な技術/サービスの取り込みによる既存企業の課題解決/事業拡大が図られ、都市の成長が促進される状態になった場合
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか グローバル展開を見据えた創業や、海外とのビジネス交流が活発な状態。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	①国内外のスタートアップイベントへの参加や福岡市主催イベントの開催 ② 海外のスタートアップ拠点との連携 ③ 海外展開研修プログラムの実施 ④ グローバルスタートアップセンター(相談窓口)の設置 ⑤ WEBやメールマガジン等による福岡市施策等の海外向け情報発信 ⑥ 国際ビジネスマッチングイベントの開催 ⑦ グローバルスタートアップコーディネーターの設置	・市内スタートアップの海外展開及び優れた技術やサービスを持つ海外企業の福岡市進出のきっかけを創出。 ・福岡市で起業したい外国人からの相談が増加。 ・研修参加者の海外展開に関する視座が向上。	・グローバル展開を見据えた創業機運の高まり ・市内スタートアップによる海外とのビジネス交流活発化	・世界で通用する市内発スタートアップの輩出や、海外スタートアップの先進的な技術/サービスの取り込みによる既存企業の課題解決/事業拡大が図られ、都市の成長が促進される
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

事業区分				重点	
基本計画					
施策コード	主	7-1-1			施策成果指標
	再	7-4-1	8-3-1	-	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している				
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり				
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現				
行政運営プラン					
取組方針	なし				
推進項目					

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		75,482	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	75,482	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		57,994	96,548
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	57,994	96,548

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	スマートシティ推進事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	総務企画局企画調整部企画課	根拠法令	なし		少子高齢化の進展による社会課題に対して、AIやIoTといった最先端の技術を暮らしや街づくりの様々な場面で活用することで、社会課題を解決し、あらゆる人が快適に暮らせる超スマート社会の実現に向けてチャレンジしていくことが必要のため。
開始年度	平成28年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 先進的技術を福岡市内で実証・導入したい民間事業者等。	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○先端技術を活用した新たな民間サービスを生み出すための実証実験をサポート。(年間12件) ○市への実装を見据えた新技術を活用した行政サービスの効率化・高質化に資する事業を実施。(年間20件)	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 少子高齢化が進展する社会の中でも、AIやIoTといった最先端の技術を活用することで、質の高い行政サービスを持続的に維持し、市民が快適に暮らせる環境を保っている状態。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 民間活力や先進的技術が導入され、市民が効率的で質の高い行政サービスを将来に渡り享受できている状態。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 公民連携ワンストップ窓口の設置	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 多くの実証実験を実施	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) スマートサービスの開発の促進 スマートサービスの市への実装	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 福岡市内で実証・実装された新たなスマートサービスが様々な分野で活用され、質の高い行政サービスが提供され、市民が快適に暮らせている。		
	指標の内容	実績	目標	指標の内容	実績	目標
	活動の指標	R2年度	R3年度	R4年度	R2年度	R3年度
	R6年度	R6年度	R6年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度
	R年度	R年度	R年度	R2年度	R3年度	R4年度

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主	7-1-1	新設事業所数(R6年度目標値:1,200事業所/年)
	再	7-4-1 2-5-1	
分野別目標	創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している		
施策	新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり		
事業群	「グローバル創業都市・福岡」の実現		
行政運営プラン			
取組方針	1スマート 迅速で便利なサービスへの転換		
推進項目	②AIやIoTなど先進技術の活用		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計	1,131		
歳入	特定財源	0	
	一般財源	1,131	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度	R2	R4	
歳出合計	8,136	6,389	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	8,136	6,389

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	留学生支援事業			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	国際政策課	根拠法令	なし		地域の競争力を強化し活性化を図る上で、地域やわが国を支える人材として、また、世界で活躍できる高度人材、あるいは出身国と福岡との橋渡しをする人材として、留学生が重要な存在となっている。そこで、優秀な留学生の本市への集積を促進するとともに、本市留学経験者を含め、地域における活用を図る必要があったため。
開始年度	昭和63年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 留学生・既卒留学生 帰国した留学生 留学を検討している海外の学生 日本人大学生 市民 地元企業	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○留学生等を対象とした有償の長期就業体験(インターンシップ)事業 福岡での就職を希望する留学生等を、在留資格の規制緩和も活用して、留学生採用を希望する地元企業に派遣するインターンシップ事業を実施し、留学生等の地元企業への就職を支援した。 ○「福岡市国際財団奨学金」による優秀な人材の福岡への呼び込み ○オンライン留学促進セミナーにおける留学生の福岡への呼び込み ○留学生の育成と活用・定着を促進する産学官連携の枠組み「グローバルコミュニティ FUKUOKA推進プラットフォーム」の運営 ○経済界、大学、県などと構成する「福岡県留学生サポートセンター」における海外リクルート活動や就職支援の実施 ○スタートアップ奨学金事業 日本人大学生の海外留学と地元での創業・就職の実現に向けた支援を実施した。 ○留学生への新型コロナウイルス感染症防止対策や経済支援策についての情報発信	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 留学生の市内での定着が進み、また、福岡ゆかりのグローバル人材のネットワークが世界中で強化・拡大され、福岡市が「グローバル人材が集い・活躍するまち」となることを目指して事業を継続する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 留学生をグローバル人材として育成し、活用・定着を促進するとともに、福岡ゆかりのグローバル人材のネットワークの強化・拡大を図り、「グローバル人材が集い・活躍するまち」を目指していくことで、都市としての国際競争力において優位性を発揮し、都市間競争に打ち勝っていく。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																								
	・留学促進セミナー等に参画し、福岡への留学生の呼び込みを実施する。 ・留学生と市民の交流を促進する。 ・留学生等を対象とした地元企業でのインターンシップ事業を実施する。 ・本市留学経験者を含む留学生とのネットワーク構築を行う。 ・日本人大学生の留学を促進する。	・留学を検討している海外の学生が福岡市を知り、福岡市に留学する留学生が増加する。 ・留学生に対する市民の理解と協力を得られる。 ・既卒留学生等が、インターンシップ事業により、自分のスキル・志望に合った地元企業と出会い、双方の合意をもとに就職することができる。 ・帰国した留学生とのネットワークにより、交流活動が活性化される。 ・日本人大学生が海外に留学し、グローバル人材として育成される。	・福岡市で就職する留学生が増加する。 ・地域での留学生の人材活用を行うことができる。 ・本市留学経験者が、福岡市に愛着を持ち、福岡市の発展に貢献する。 ・日本人大学生がグローバル人材として福岡市で就職または創業する。	・福岡市が「グローバル人材が集い・活躍するまち」となっている。 ・産学官が連携して、グローバル人材の育成に取り組んでいる。 ・福岡ゆかりのグローバル人材ネットワークが世界中に広がっている。																																																																								
	指標の内容	実績	目標	実績	目標																																																																							
	福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数(各年5月1日時点)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>5,533</td> <td>4,103</td> <td rowspan="3">4,103</td> <td>R4年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3,644</td> <td>3,327</td> <td>4,103</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>65.9%</td> <td>81.1%</td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	5,533	4,103	4,103	R4年度	実績	3,644	3,327	4,103	達成率	65.9%	81.1%		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標				R 年度	実績					達成率					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> <th>R4年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>R4年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>5,988</td> <td>5,970</td> <td>4,000</td> <td>4,000</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	目標	-	-		R4年度	実績	5,988	5,970	4,000	4,000	達成率	-	-			目標				R 年度	実績					達成率			
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																								
目標	5,533	4,103	4,103	R4年度																																																																								
実績	3,644	3,327		4,103																																																																								
達成率	65.9%	81.1%																																																																										
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																								
目標				R 年度																																																																								
実績																																																																												
達成率																																																																												
年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度																																																																								
目標	-	-		R4年度																																																																								
実績	5,988	5,970	4,000	4,000																																																																								
達成率	-	-																																																																										
目標				R 年度																																																																								
実績																																																																												
達成率																																																																												

事業区分		重点
基 本 計 画		
施策コード	主 8-5-1	施策成果指標
	再 -	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
施策	グローバル人材の育成と活躍の場づくり	
事業群	グローバル人材の育成・集積	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)		
令和3年度決算額(見込額)		
	歳出合計	5,009
歳入	特定財源	0
	一般財源	5,009
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	R2 R4
	歳出合計	5,184 8,830
歳入	特定財源	0 1,250
	一般財源	5,184 7,580

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	在住外国人の生活環境整備			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	総務企画局 国際政策課	根拠法令	なし		国際化の進展に伴い、在住外国人の生活情報の収集・提供を中心に事業開始。 生活者としての外国人が増加しており、これまでの生活情報の提供等に加え、地域における外国人住民との交流を促進していく必要がある。
開始年度	昭和61年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか ・在住外国人(生活者としての外国人) ・地域住民 ・在住外国人の支援者(日本語ボランティア等)	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○多言語・やさしい日本語による情報提供(生活ルール・マナー紹介) ・電話通訳、映像通訳の一括導入 ・AI多言語音声翻訳アプリの導入 ・転入手続き時の生活ガイダンスの実施及びウェルカムキットの配付 ・音声による情報提供(ラジオ、ポッドキャスト(R2~)) ・やさしい日本語の活用推進(市HP・SNS) ○地域における外国人住民との交流支援 ○日本語教育の推進 ・市民センターにおける日本語学習支援[東・中央・城南・早良・西区]	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ○福岡市は、在留資格別でみると「留学」が最も多いという特徴があることから、新たに福岡へ転入する外国人に対し、生活ルール・マナーの周知や地域との交流を通じた相互理解の促進など、継続して実施する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○地域における外国人住民との交流が促進され、相互に理解している。 ○在住外国人 ・日本の生活ルール・マナーや日本の制度を理解している。必要な情報にアクセスできている。生活に必要な日本語を学び、コミュニケーションができていく。 ○日本人(地域住民) ・海外の多様な文化を理解し、外国人とも隔たり無く交流できている。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)							
	・生活情報や生活ルール・マナー等の情報提供 ・日本語教室の開催。 ・地域における外国人住民との交流支援	・在住外国人に生活情報が届き、生活ルール・マナーを理解。 ・在住外国人が日本語を学ぶ。 ・外国人住民と交流する。	・外国人が生活ルール・マナーを守り、日本の生活・文化に慣れる。 ・外国人が日本語を習得し、日本人とコミュニケーションができるようになる。 ・外国人住民との相互理解が進む。	・相互理解が進み、外国人にも住みやすく活動しやすいまちになる。 ・外国人にも住みやすいまちは、外国人材及び留学生の誘導、定着を下支えし、福岡市の活性化につながる。							
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)							
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度		年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
地域における外国人住民との交流支援した校区数 (事業実施済のみ計)	目標	10	20	20	R年度	在住外国人の住みやすさ評価(どちらかと言えば住みやすい含む)	目標	-	96.5	-	R6年度
	実績	4	6	-	-		実績	-	95.3	-	現状維持 (95%以上を維持)
	達成率	40.0%	30.0%	-	-		達成率	-	98.8%	-	
市主催日本語教室の延べ受講者数	目標	4,000	4,000	4,000	R5年度	福岡市に住んでいる外国人の数	目標	-	39,000	40,000	R6年度
	実績	745	1,165	4,000	4,000		実績	-	35,399	-	45,000
	達成率	18.6%	29.1%	-	-		達成率	-	90.8%	-	

		事業区分	重点
基本計画			
施策コード	主 8-8-1	施策成果指標	○在住外国人の住みやすさ評価(福岡市は「住みやすい」と感じる在住外国人の割合)(R3: 65%) ○福岡市に住んでいる外国人の数(H28: 29,000人、R4: 39,000人)
	再 -		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり		
事業群	外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり(多文化共生の推進)		
行政運営プラン			
取組方針	2ぬくもり 多様なニーズに寄り添うサービスの提供		
推進項目	④市民や企業などとの共働・連携		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
	歳出合計	31,736	
歳入	特定財源	861	
	一般財源	30,875	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
	歳出合計	27,810	38,823
歳入	特定財源	2,038	2,004
	一般財源	25,772	36,819

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進			背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	国際協力課	根拠法令	なし		アジアの諸都市は、急激な経済成長に伴う都市問題に直面している。一方、福岡市は、「住み良いまちづくり」のノウハウを持っているため、都市問題解決に寄与することにより、国際貢献・協力を図るもの。
開始年度	平成24年度	行政計画	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 海外の諸都市 地場企業	実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○国際ビジネス展開プラットフォーム(PF)会員企業向け個別企業相談会を開催(R4.2) ○福岡市独自でヤンゴン市へ技術職員を長期派遣実施(H29.2～、継続) ○PF内外の地場企業のヒアリングを実施し、支援方策を検討 ○JICAなど国際協力に係る関係機関等との協議・連携強化 ○PF会員企業のJICA中小企業支援事業等採択支援 ○水道・下水道・環境などの分野における、JICA事業等による技術職員派遣(技術協力)(担当局にて実施)	成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか ・国際貢献を通じた官民連携による取組みから派生し、民間企業が自発的かつ恒常的に国際ビジネス展開に取り組む状況となった場合、事業を終了する。
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 市の「住み良いまちづくり」を広くアジアに紹介し、アジアにおける都市問題解決に寄与することで、国際貢献・国際協力を積極的に推進する。この取組みにより、アジアにおいて知名度やステイタスを向上させアジアでの存在感を高めるとともに、地場企業のビジネスも含めた事業展開をめざす。				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際ビジネス展開プラットフォーム(PF)」の運営 ・関係分野におけるJICA事業等による技術協力 ・関係構築が進んだ地域を対象とした海外ビジネス展開活動 ・海外への職員派遣継続、及び海外諸都市の情報収集 ・国際会議、国際機関等を通じた視察・研修受入事業の広報活動 ・視察・研修受入による海外諸都市の情報収集及びニーズ把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・PF会員企業と相手地域・ローカル企業との交流が図られる ・技術協力相手国、JICA等関連機関との関係が強化される ・ODA案件受注に向けたノウハウが蓄積される ・海外諸都市からの視察・研修の申し込みが増加 ・海外諸都市のニーズに沿った視察・研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ODA等の案件形成 ・PF会員企業の海外展開案件形成 ・福岡市の「住み良いまちづくり」を活かした海外諸都市の都市問題の解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携したODA案件の獲得等により、地場企業の海外ビジネス展開が加速。 ・アジアにおける福岡市の知名度・ステイタスを向上させ、存在感が高まる。 	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	活動の指標	年度	R2年度	R3年度	R4年度
福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業との連携活動件数(単年)	目標	8	5	5	R 年度
	実績	5	3	-	-
	達成率	62.5%	60.0%	-	-
海外技術協力日数(累計)	目標	5,814	6,979	7,522	R 年度
	実績	5,786	5,860	-	-
	達成率	99.5%	84.0%	-	-

			事業区分	重点
基 本 計 画				
施策コード	主	8-6-1		なし
	再	-		
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進			
事業群	ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進			
行政運営プラン				
取組方針	なし			
推進項目				

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出合計		1,735	
歳入	特定財源	224	
	一般財源	1,511	
前年度決算額・翌年度予算額			
年度		R2	R4
歳出合計		10,987	25,801
歳入	特定財源	0	1,500
	一般財源	10,987	24,301

事務事業マネジメントシート（令和3年度実施分）

事業名	国際視察・研修受入事業		背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
所管課	総務企画局国際部アジア連携課	根拠法令		なし
開始年度	平成21年度	行政計画		なし
事業を開始した当時のアジア各国は、都市が成長する過程において、環境汚染、水不足、少子高齢化などの様々な問題が起きている状況であった。そのような中、本市では、ゴミ・環境問題、水不足等の課題解決を続けていたことから、本市のノウハウや経験をアジア地域の諸問題の解決に貢献したいと考えたもの。				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか アジアの各国
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ○本市の持っている知識や技術を学び、自国の課題解決に結びつけることができる。 ○研修を通じて、福岡市との繋がりが生まれ、本市事業やビジネスに活かされている。 ○アジア各国における福岡市の知名度があがり、福岡市への来訪が増えている。

実施内容(手段)	令和3年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか <実施主体> 福岡市と福岡アジア都市研究所(URC)と覚書を締結した上で、役割分担を決めて事業を実施している。(全額負担金事業) <3年度の実施内容> ・コロナにより海外からの受け入れが出来なかったため、オンラインによる研修を実施。(11件 667名) ・オンライン研修の充実に向けて、国内外への広報の充実強化を行った。(メールでの広報、URCホームページ掲載内容の充実、国際視察・研修ガイドの見直し等)
----------	---

成果(終期・継続検討)	どのような状態になったら事業を終了するのか、又は継続するのか 本事業は政策推進プランに位置付けられている事業であることから、基本計画の改定時期(令和7年)に合わせて、本事業の在り方を検討する予定。
-------------	---

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)								
	・広報先の掘り起こしを行う ・アジアの国々の関係者に事業の案内を行う ・市内の関係機関等を通じて事業の案内を行う ・URCのホームページに研修実績を掲載する ・受入局(所管課)の情報を収集し、国際・視察研修ガイドの更新(見直し)を行う。	・アジアの国々の関係者が事業案内やURCのホームページを通して、本事業の存在を知る。 ・アジアの国々からURCに研修の相談がある	・相談者と受入局(所管課)と調整を行い、受け入れ(オンライン研修)が決定する ・研修を通じて、福岡市の知識や技術を学ぶ ・研修を通じて、福岡市の関係者と繋がりが生まれる ・来福することで、福岡市の自然や文化等を知る	・アジアの国々が福岡市の知識や技術を学び、自国の課題解決に結びつけることができる。 ・研修を通じて、アジアの国々と福岡市との繋がりが生まれ、本市事業やビジネスに活かされる。 ・アジア各国における福岡市の知名度があがり、福岡市への来訪が増える。								
	指標の内容	実績	目標	成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標					
活動の指標	URCで相談を受けた件数	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	視察研修受入人数(オンライン含む)	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
		目標	-	-	-	R 年度		目標	1,400	1,540	1,700	R6年度
		実績	3	14	-	-		実績	175	667	1,700	1,700
	達成率	-	-	-	-	-	達成率	12.5%	43.3%	-	-	
	URCで相談を受けた件数	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度	受講者の満足度(大変有益+有益)	年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終年度
		目標	-	-	-	R 年度		目標	-	-	-	R 年度
実績		-	-	-	-	実績		未実施	91.8%	-	-	
達成率	-	-	-	-	-	達成率	-	-	-	-		

事業区分		重点
基本計画		
施策コード	主 8-6-1 再 -	施策成果指標 視察・研修受入人数(R4目標値:1,700人/年)
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている	
施策	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進	
事業群	ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進	
行政運営プラン		
取組方針	なし	
推進項目		

事業費(千円)			
令和3年度決算額(見込額)			
歳出	合計	3,779	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	3,779	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	R2	R4
歳出	合計	4,909	4,040
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	4,909	4,040